

おれんじ

NO.92

発行日 2022.11.12
発行・編集 土佐女子中学・高等学校
高知市追手筋2丁目3番1号
電話 875-3111 (代)

土佐女子から

学ぶこと

高校教頭 松山 幸



◆新学習指導要領と土佐女子教育

「学習指導要領」とは、全国どの学校でも一定の内容と水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準であり、およそ十年に一度改訂される。その新しい学習指導要領が、昨年度より中学校において全面実施、今年度からは高等学校において、年度進行で実施されている。

文部科学省ホームページによれば、新要領に「生きる力、学びのその先へ」との思いを込めたことである。さらに「社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、三つの力をバランスよく育みます。」とある。その三つの力とは、
①実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能
②未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など
③学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など

である。

文部科学省のねらいと本校の教育を対比させてみよう。今年度、本校は創立一二〇周年を迎えたが、創立六〇周年記念誌には本校の教育について「文学と芸術とを融和し、極めて実用的で品位ある女性を養成するのが主眼である。」と記載されている。また、一九七〇年代半ばには、現在の教育方針「**明朗・聡明・愛情・気品**」の原形が学校をあげて検討されたという記録もある。

文部科学省の「バランスよく育む」は本校の「融和し、学び、知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」という三つの力は「**明朗・聡明・愛情・気品**」と重なる。つまり、本校の教育方針は、新しい学習指導要領の内容や目標と違うところがないばかりか、過去から現在に至るまで、自然と望ましい力が身につくように定められていると言える。その成果は、二〇一〇年の長きに渡り、脈々と受け継がれている。本校の教育に関わった方々が生徒の将来像を思い描き、指針を言葉にして残してくださったことに改めて尊敬と感謝の念を抱くばかりである。

◆母校愛の継承

特に本校には「土佐女子ファ

ミリ」という言葉がある。中高六年間、または高校三年間を本校で過ごした生徒は、在学中はさほどでなくても、卒業を迎え学校を離れた瞬間、母校愛に目覚めるといふ。事実、土佐女子で過ごした同窓生の縦横のつながりの強さを感じる話を頻りに耳にする。様々な場面での立ち居振る舞いや雰囲気から、校友だとわかる瞬間、両者の距離は一気に縮まり、中高時代にタイムスリップしたかのように話に花が咲き、その後関わりが緊密になる。

「成人式の日には着姿で学校に集合しよう。」「入社式で再会した卒業生たちの入社式の写真を恩師に見せよう。」「卒業後も文化祭には必ず来校しよう。」「結婚して女の子が生まれたら土佐女子に入れよう。」など、自分が過ごした環境や学生生活に満足している者でなければ思いつくまい。異動のない私立学校ゆえといえ、恩師の喜ぶ顔が見たいというような母校愛の表し方は他校の卒業生にあるのだろうか。ここが公立学校とは異なる私立学校の、そして本校の良さであると私は考えている。

◆土佐女子の源

本校創立時に話を戻そう。前田松寿女史は高知県の女子教育の振興と女子教育機関の補完という使命感をもって、小学校裁縫科の専科教員免許を取得、裁縫手芸を主とする女学校の設立を志した。教育によって女性の生活の安定と自立を願ったのである。それに高知県首席属北村浩氏と高知県視学池田永馬氏が高等女学校風にするのを助言し、本校の前身である私立高知女学校が高知市に設立された。当時としては高度な教育を受け社会進出もできる女性の育成を図ったのである。

現代の社会では、自ら問題を発見し解決する力が必要とされる。前例のないことへのチャレンジも求められる。創立者の志はまさにこの「チャレンジ」で

あり、本校の教育は創立の頃からこれらの力を培うに足るものであったと私は見ている。

◆誠実であること

最後に、私自身が生徒を指導するうえで心がけていることについてお話ししよう。生徒のみならず、保護者に対しても同じで、それは「誠実」である。

しかしながら、このことは困難を極める。相手に対して誠実であるためには傾聴の姿勢をとることが多いが、不興を買うとわかっているのに、意に添わぬ返答をしなければならぬこともある。誠実に対応すること、相手の思うままになることは違うと思うからで、これもまた私なりの誠実な対応だ。同時にそれは相手に対して「あなたは誠実ですか？」と問いかける自分が存在するということもある。ただし、その問いかけは相手に反射して再び自分に返ってくる。そのような自問自答を繰り返しつつ「誠実」について探究している。

また、立場上、客観的かつ冷静な判断が求められる機会が多い。これも悩ましいことだが、「最善の判断を求められているわけではない。最悪の判断さえしなければ、自分の決断に自信をもって前に進めばよい。」と考えるようにしている。だからこそ誠実でなければならぬ。そう自分に言い聞かせている。

「客観的かつ冷静に判断をする」ためには、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力」と「学びに向かう力、人間性」といった力が肝要だ。本校の学びは私にとっても有益なものなのだろう。

中学・高校といった多感な時期の舞台として、本校を選んでくれた生徒たちも困難に直面することがあるだろう。その先の人生もまた然りだ。その度に、適切に判断をし、歩を進める際の一助となるよう、これから自身の務めを果たしたい。

過去3年間の大学別合格者数一覧 (のべ数・年度は入試年度)

大学名	合格者数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
お茶の水女子大	1		1
大阪大	1		
神戸大		1	
岡山大			4
島根大	1		
香川大	2	1	1
愛媛大		1	
高知大	10	7	9
熊本大		1	
釧路公立大	5	5	2
金沢美術工芸大	1		
都留文科大		1	
愛知県立芸大			1
新潟県立大	1		
長野大	1		
神戸市外大	1		
兵庫県立大学			1
鳥取環境大	1		
島根県立大	2		
尾道市立大	1		
福山市立大	1		
高知工科大	7	5	5
高知県立大	10	10	11
北九州市立大		1	
名城大	1		
計	47	33	35
文教大学			1
青山学院大			2
亜細亜大		2	
大妻女子大			
慶応義塾大			1
國學院大		1	2
国士舘大	2		
実践女子大		1	
駒沢女子大	1		1
昭和女子大	1	1	3
女子美大			1
白百合女子大			2
専修大	1		
創価大		1	1
大正大	1	1	
大東文化大	2		1
玉川大			1
中央大			2
帝京平成大		1	
帝京大		1	1
東海大	1	1	
東京家政大	1		1
東京家政学院大	1		
東京工科大		1	
東京電機大	4		1
東京薬大			1
東京経済大	2		
東洋大	2	2	1
日本大	1	1	1
日本女子体育大			1
日本体育大			1
城西国際大		1	
法政大	3	1	3
武蔵野音大			1
武蔵野大			1
明治大			1
明治学院大		1	
立教大	1	1	
立正大	1		
学習院女子大	1		
関東学院大			1
昭和音大	1	1	
共立女子大	1		
和洋女子大	1		
横浜薬科大	1	3	
中京大	1		1
名城大			1
人間環境大	1		
鈴鹿医療科学大			1
大谷大	2	1	
京都外大	2	2	2
京都先端科学大			2
京都産業大	6	3	5
京都女子大	2	3	
京都芸術大	1		
京都橘大	3	9	1
京都光華女子大	4	1	1
同志社大	4	1	1
同志社女子大	1	1	2
佛教大		4	
立命館大	1	1	6
龍谷大	3	1	6
追手門学院大	2		2
大阪音大			1
大阪芸大	1	3	
大阪経済大		2	
大阪商業大	2	2	
関西大	6	4	3
関西外大	4	4	2
近畿大	1	3	5
摂南大			4
梅花女子大		1	
阪南大	3	3	
桃山学院大	2		1
大和大		1	1
関西学院大	2	2	3
甲南大	1	2	1
甲南女子大	3	3	3
神戸学院大	3	6	10
神戸国際大	1	1	2
神戸学院大	2		5
神戸女子大	11	5	12
神戸松蔭女子大	6	1	3
神戸親和女子大	2		3
関西福祉大	3	3	3
兵庫医療大	2	2	
姫路大			1
奈良大	1	1	
岡山商大			1
岡山理大	2	4	
川崎医療福祉大	3	2	1
倉敷芸術科学大			1
就実大			3
美作大	1	6	5
環太平洋大			1
広島学院大			1
福山大			2
安田女子大	4	3	3
広島国際大	2		1
四国大	2	4	
徳島文理大	10	19	3
松山大	11	6	1
高知学園大	12	12	16
高知リハ専門職大	8	5	7
福岡大	1	1	
他	34	42	
計	209	203	172
実践女子大短大部			1
昭和音大短大部	1		
大手前短大			1
奈良芸術大		2	1
関西外大短大部	2	2	
武庫川女子短大部	1		
神戸女短大	1		
川崎医療短大	1		1
就実短大			1
美作大短大部			1
徳島文理大短大			1
高知学園短大	21	12	14
他	3	4	
計	30	20	21

一部地域で津波警報が発令され、物々しい厳戒態勢がとられる中での実施となった昨年度の『大学入学共通テスト』。理数科目を中心に平均点が大幅に低下し、受験生にとっては心理的な負担が大きくなった。前年度に引き続き、県内の一部大学が推薦入試において面接試験を中止するなど、コロナ禍の影響を受ける入試でもあった。

『多様性』重視の時代を反映し、最近の入試では出願要件における英語外部検定試験の扱いや各教科の配点比率など、かつての横並びから各大学が個別に設定する項目が大幅に増加している。入試システムをより複雑化させている。高校生活を看過なく受動的に過ごしていれば、結果的に三年時にあらゆる入試に対応できるであろうという時代ではなく、受験生本人の情報収集能力や、主体的かつ具体的な日々の取り組みが合否を左右する時代になったと言える。

また、入試において『多面的な評価』が行われるようになり、高等学校が作成する書類に加えて、受験生本人が三年間の取り組みの成果を『客観性』のある書類で示していくことが求められている。

つまり高校一年時から、具体的な目標を立てて能動的に日常に臨み、その取り組みの成果を自己評価して、更なる成果を求めて自己の取り組みを改善していくという、いわゆるPDCAサイクルを生徒自身が主体的に回しながら自立した学生生活を送ることが求められている。

国の科学技術基本計画によると、人工知能（AI）、ビッグデー

タ、IoT等の先端技術を積極的に活用することで「サイバー空間（仮想空間）」と「フィジカル空間（現実空間）」を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」を目指しているとのことである。

教育界においても「基礎的読解力、数学的思考力などの基礎的な学力に加え、情報活用能力をすべての児童生徒が習得」することを目標に改革が進められている。具体的には、語彙の理解、文章の構造的な把握、読解力、計算力や数学的な思考力など、基礎的学力の定着を重視した新学習指導要領の確実な習得を目指している。『大学入学共通テスト』等においてもこれらの力を重視すると明言している。また、情報活用能力の習得のため、大学入学共通テスト（二〇二四年以降）で「情報」を出題科目に追加することが発表されており、小中高を通じてデータ・サイエンスや統計教育を充実するとの発表がなされている。

実際、大学入試では新教育課程を意識した出題が随所で見られる。『大学入学共通テスト』において、数学では、公式等の知識の運用能力を単純に問うのではなく、身の回りの課題・事象に対し数学的知識を用いることで解決させようとする問題や、複数のアプローチで解答を導く問題、更には公式や定理の論証・証明問題が出題されており、いわゆる知識の表面的理解では対応できない出題となっている。普段から「答えが出ればよい」「公式さえ暗記すればよい」という姿勢で学習に臨んでいては

対応できない。また、ある国立大学では学校推薦型選抜の面接試験において、四字熟語の意味に加え、その内容に当てはまる本人のエピソードを語らせる口頭試問を行うなど、単に知識の暗記だけではなく、知識の運用能力を測ろうとする姿勢が見られる。

この傾向は他教科にも見られ、複数の資料を読解・分析し解答を導く問題や、更には分野の枠を越えた出題もなされており、教科の枠にとらわれずに知識を結び付けて考える力を身につけていくことが必要とされている。また、英語のリスニングでは「働き方改革」を話題とした問題が出題されており、日々身の回りの課題やニュースに興味関心をもって過ごしていくことが求められている。

大手教育関連企業が全国約五〇〇校の国公立・私立大学から回答を得た調査結果によると、学校推薦型選抜（推薦試験）において大学側が受験生に求める力の第1位は、『明確な志望動機』で、国立大学の八十六％、私立大学の七十九％が筆頭に挙げた。大学側の示すアドミッションプオリシー（受入方針）をしつかりと理解したうえで、面接や提出書類において大学在学中のビジョンを具体的かつ明確に提示する必要がある。

なお、国公立大学の第2位は『思考力、判断力、表現力などの応用的な学力（八十三％）』であり、以下『コミュニケーション能力・何事にも前向きに取り組む姿勢（七十六％）』、『基礎学力（六十九％）』と続いた。一方、私立大学の第2位は『基礎学力（六十九％）』であり、『思考力、判断力、表現力などの応用的な学力・コミュニケーション能力（四十九％）』と続いた。この調査結果から、推薦試験においても「学力」が重要視されていることがわかる。

がわかる。

学校推薦型選抜の一種である指定校推薦においても、大学入学共通テストを受験することや、一般入試の受験生と同じ日程で大学独自の入学試験を受験することを出願条件とする大学が増加している。なお、指定校推薦制度は大学側と高校側の信頼関係によって成立する制度であり、大学側が推薦依頼を行う高校を選定し、様々な条件を提示する。万一、進学後の生活態度や学業成績が良好でない場合、学校間の信頼関係が損なわれることとなり、結果的に次年度以降の推薦依頼が消滅することとなる。また、過去数年間の一般入試を含む受験・進学実績をもとに、推薦依頼先の見直しが行われている。

ここで求められている『コミュニケーション能力』とは、自分の考えを論理立て、適切な言葉を用いて相手に正確に伝える能力だけでなく、相手の感情や発言の意図を理解して場に相応な対話を試みる能力のことを指す。一朝一夕に習得できるものではない。

「成果が出るのは数か月後」という言葉がある。夏休み返上で学習した成果が出るのは、この秋以降ということになる。確固とした信念をもって日々着実に努力を重ね、見事に第一志望校に合格した者や、残念ながら学校推薦型選抜で不合格となった生徒の中にも、初志貫徹で最後まで挑戦をし、見事逆転で「行きたい学校」の合格通知を手にする者がで

きた者もいる。しっかりと腰を据えた取り組みが功を奏したといえる。

受験は時間との戦いでもあり、後戻りはできない。故に受験期における迷いは禁物である。受験計画について家族でしっかりと話し合い、ホーム主任と連携しながら一枚岩となって爾々と進めていくことが求められる。

合格体験記

『なりたい自分になるために』

岡山大学 工学部工学科（学校推薦型選抜）合格
龍谷大学 先端理工学部知能情報メディア課程（学校推薦型選抜）合格

鍋島 咲良

じやないかと不安に思った時もありました。しかし、そのような自分の心配より「推薦試験の対策を手伝ってくださった先生方や応援してくれている方々に報告をしたい」と人のために努力をすることで、自然と前を向いて頑張ることができました。なので受験勉強で行き詰まった時にはこのように少し考え方を変えてみるというかもしれません。

私が受けた推薦試験は面接、数学と英語の口頭試問がありました。

面接はとにかく練習を重ねて自分の考えをしっかりと言葉にすることが大切だと感じました。また、自分が興味を持つ分野だけではなく、幅広い分野での知識を持つことも必要だと思えます。特に私は岡山大学で熱心に教育が行われていたSDGsについての知識を深めるため毎日図書館に通い、たくさん本を読むようにしていました。ただし、推薦試験では知識を問われるのではなく、その知識に基づいて受験生がどのような考えを持っているのかを問われるので、本を読んだ後に自分の考えをまとめることが最も重要だと感じます。ぜひ実践してみてください。

口頭試問の対策は、数学はその場で問題を渡されて黒板に解いて説明する練習、英語は短文を読んで訳す練習をしていました。どちらも時間制限を設けて本番形式で練習することで、本番では焦ることなく落ち着いて挑めたと思います。また、口頭試問は推薦に向けての特別な練習というわけではな

く、今まで通り数学と英語の学力を上げることも十分対策になると感じました。

面接、口頭試問どちらもたくさん練習して数をこなすことが大切だと思います。練習を重ねることで自信が付き本番でも「やることはもう全部やったから大丈夫」という気持ちで挑むことができました。本番をベストパフォーマンスで乗り切るためにはそれまでに対策できることはすべてやっておくことが重要です。

この推薦試験を通して自分自身大きく成長できたと思います。はじめは曖昧だった志望理由も最終的には定まり、岡山大学に行きたいと心から思うようになりました。もし私のように推薦試験を受けようか悩んでいる方がいたら、ぜひチャレンジしてほしいです。ホーム主任の先生がおっしゃったように推薦試験を受けることはきつと皆さんにとっていい経験になります。また、推薦試験を受けるから、合格したからと言って決して勉強を疎かにしないでください。私自身共通テストで目標にしていた点数に遠く及ばず、合格発表後の過ごし方をとても後悔しましたし、一般試験で一人で合格を勝ち取る受験生を思うと自分に引け目を感じました。だから、もし推薦試験などで合格したとしても最後まで受験生という意識をもって勉強に励んでほしいです。



創立百二十周年記念式典

去る令和四年六月四日（土）、県知事、国会議員、高知市長はじめ、多数のご来賓の臨席を賜り、創立一二〇周年記念式典が厳粛に執り行われた。式典は祝辞、永年勤続者表彰、校長挨拶など、ほぼ前回を踏襲する形式であったが、今回は「コロナ禍」ということもあり、ご家族の臨席はなく、四代三代表彰は生徒のみで行われた。また、校歌斉唱では書道部によるパフォーマンスも披露され、最後は万歳三唱で終了した。



文化祭



去る令和四年九月二十五日（日）、文化祭が開催されました。今年も新型コロナウイルスの影響で午前中の開催となりました。メインアリーナでは・ダンス部・バトン部・邦楽部・書道部のパフォーマンスが文化祭を盛り上げました。また、サブアリーナでは運動部によるSASUKE（障害物競走）が行われました。さらに、各教室ではホームや部活動、総合学習、交友会などの催し物がありました。



文化講演会

令和四年九月二十三日（金）

去る、令和四年九月二十三日（金）土佐女子メインアリーナにおきまして文化講演会が開催されました。本年度の講師は「山ちゃん」の愛称で親しまれている山里亮太さんです。芸人として幅広い活躍をされているほか、高知県の観光大使でもあることから、今回は『山ちゃん、高知県観光大使として高知愛を語る』と題して講演をしていただきました。

校長からの紹介の後、「ただいまー」という山里さんの第一声に会場は歓声の渦に包まれました。縁もゆかりもなかった高知を好きになったきっかけから始まり、今では県民から「おかえり」と声を掛けられるほどに親しくなった理由、「よさこい」や高知への新婚旅行などのエピソードを、笑いを交えて語っていただきました。それらは講演というよりも、むしろ、お笑いライブの様相を呈した、とても楽しく、かつ改めて高知の良さを再発見させられるような内容でした。

また、この講演には人生に対する教訓や郷土愛の大切さも垣間見ることができました。「好きの先に何かに出会える」という示唆に富んだ言葉は、まさに山里さんの人生そのものでした。そして「街を愛することで人生を豊かにしてくれた」という言葉からは高知に対する愛が溢れていました。さらに「人生をかけて、この街のために頑張りたい」という言葉からは、観光大使としての責任感や誇りが感じられ、県民として感動すら覚えるような人情味溢れる講演でした。

最後の質疑応答では、かつてないほどの生徒が手を上げ、延々と続く質問にも、丁寧に、しかも面白く答えていただきました。芸能界の厳しさや努力の大切さを生徒達も悟ったことでしょうか。壇上でのお礼で述べた生徒達の「心から好きになるものを見つけた」「高知が誇らしく思えた」という言葉が、この講演会の成功を如実に物語っています。楽しい時は刹那に過ぎ、万雷の拍手と喝采につつまれながら講演は終了しました。



講師紹介 **山里 亮太**

関西大学文学部教育学科在学中に吉本総合芸能学院（SNC）に入学。二〇〇三年、山崎静代さんとお笑いコンビ南海キャンディーズを結成。現在に至るまで、お笑いタレント、司会者、声優、ナレーター、ラジオパーソナリティなどとして幅広く活躍中。二〇一九年、女優の蒼井優さんと結婚。高知好きとして知られ、同年、高知県観光大使に就任。

運動会

去る令和四年九月二十九日（木）運動会が開催されました。コロナはまだ収束していませんが、競技を二十六種目に増やし、有観客で行われました。最後は高三生による、よさこいの大乱舞で例年通りの盛り上がりを見せました。



遠足



令和四年十月十三日（木）、秋の遠足が行われました。行き先は以下の通りでした。

- ・中一 土本観光農園
- ・中三 山北みかん狩り
- ・高一 レオマワールド
- ・高三 鷲羽山ハイランド





第二十三回高校生国際美術展表彰式(書道部)

令和四年八月三日、ホテル、ザ・リッツ・カールトン東京に於いて、第二十三回高校生国際美術展の表彰式が開催され、本校三年、國松千聖さん(写真左)が名誉会長賞を受賞した。時を同じくして東京で開催されていた高文祭とは趣を異にした絢爛たるもので、チャールズ皇太子(現英国王)賞にはイギリス旅行の副賞が付いている。岸田内閣総理大臣や、小池東京都知事なども、その地位を冠した賞と共にビデオで祝辞を寄せ、東京芸大の絹谷名譽教授等、著名人がプレゼンターとして登壇した。

國松さんの賞は書道部門、全国一〇、〇七三点の応募の中から上位十五点に入るものである。前郵政大臣、亀井静香名誉会長(写真中央)が登壇し、直々に授与された。

この美術展は書道を含む美術工芸の作品展であった。海外からの受賞者も十三名含まれた国際色に彩られたもので、この様子はYouTubeで世界に配信され、作品は六本木の国立新美術館に展示された。

芸術は言語や国境を超える普遍性を持っている。まさに、そのようなことを感じさせる表彰式であった。



第五十三回全国中学校卓球大会へ出場して

卓球部顧問 濱田裕和

令和四年八月十九日(金)から二十二日(月)の期間、北海道苫小牧市で開催された「第五十三回全国中学校卓球大会」へ出場し、十六年ぶりの三位入賞を果たすことができました。このような結果を残すことができましたのも、学校の理解と日頃から協力いただいている保護者の皆様や熱心にご指導いただいた外部指導者の方々、そして、日々努力を続けて取り組んできた生徒の頑張りなどが「土佐女子魂」となり力を発揮させたのではないかと思っております。手に汗を握る接戦を目の前にして、私自身も自分が選手で出場している気持ちで共に戦いました。試合を振り返りますと準々決勝では昨年敗れている益田中学校との対戦となりました。昨年敗れているメンバーもおり「絶対に負けたくない」という気持ちと気迫が溢れていました。苦しい練習に挑戦してきた生徒たちでしたので、必ずやり遂げてくれると信じて送り出しました。その期待に応えてくれたの見事な勝利でした。準決勝では優勝候補の貝塚第二中学校に敗れましたが、最後まで諦めずに挑戦することができました。この全国大会での素晴らしい経験を生かして、今度は「日本一」という大きな目標に向かって日々生徒とともに精進していきたいと思っております。今後とも土佐女子卓球部にご声援をどうぞよろしくお願い致します。



【試合結果】

予選リーグ 第一試合 土佐女子 五対〇 下妻東部中学校(茨城)

第二試合 〃 三対二 札幌大谷中学校(北海道)

決勝トーナメント 二回戦 土佐女子 三対一 益田中学校(島根)

準決勝 〃 〇対三 貝塚第二中学校(大阪)



令和4年度 部活動(全国大会)実績

放送部	第69回NHK杯 全国高等学校放送コンテスト	アナウンス部門出場	高3 楠瀬瑠佳 高3 安岡佳保 高1 岡崎文香 高1 酒井なつみ	
		朗読部門出場	高1 林崎莉緒	
		テレビドラマ部門出場		
ライフル射撃	第77回国民体育大会 栃木国体	少年女子チームピストル 立射60発 準優勝	阿部花論	
		2022年度全日本ライフル 射撃競技選手権大会	チームピストル立射女子 60発競技女子個人優勝	阿部花論
邦楽部	第46回全国高等学校 総合文化祭(東京大会)	日本音楽部門出場	総合成績 A	
		第40回全国小・中学生 箏曲コンクール	審査員奨励賞	
バトン部	第46回全国高等学校 総合文化祭(東京大会)	バレード出場		
		マーチングバンド・バトントワリング部門 出場		
書道部	第46回全国高等学校 総合文化祭(東京大会)	書道の部 出場	高3 大野佑梨	
		第56回高山山競書大会	【管長賞】 中3 勝賀瀬颯 中2 有光由藍	
書道部	第23回高校生国際美術展 書の部	【高校生国際美術展実行 委員会名誉会長賞】	高3 國松千聖	
		第19回安芸全国書展 高校生大会	【恩地春洋賞】	高3 川野上明
		第21回全国書道展	【準大賞】	中3 安部瑞姫
		第38回高円宮杯日本武道 館書道大展開覧会 毛筆の部	【全国都道府県教育長協 議会賞】	高3 國松千聖

水泳部	インターハイ	200m自由形出場	高2 石本夕芽
	栃木国体	少年女子A 400m個人メドレー出場	高2 山本礼羅
マンガ サークル部	第31回 全国高等学校漫画 選手権大会	本選出場	
卓球部	第91回全国高等学校卓球 選手権大会	女子シングルス出場	藤本望水
	第53回 全国中学校卓球大会	個人戦出場	石川実鈴(ベスト 32) 西岡緩夏 松本結鶴 西岡琉夏
		団体第3位	中3 石川実鈴 中3 石川愛望 中3 西岡緩夏 中3 八木葉澄 中1 西岡琉夏 中1 濱村衣千佳 中1 松本結鶴 中1 山岡心音
弓道部	インターハイ	個人出場	高2 萩野夏帆
	全国中学生弓道大会	団体出場	中3 坂口凜瑠 中3 片岡妃花里 中3 久保田彩叶 中3 北村すず
囲碁部	第46回文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会	団体戦出場	長田こゆき 松田菜々子 山中彩音
		個人戦出場	松田菜々子
高校バドミ ントン部	インターハイ	団体戦出場	
		ダブルス出場	黒石愛奈・利根 美咲組 五十田彩乃・山 脇理保子組
		シングルス出場	黒石愛奈ベスト 32
	栃木国体	黒石愛奈・利根美咲出場	